

新たな福岡市立障がい者スポーツセンター整備基本構想有識者会議
第1回会議議事要旨

■日時

令和8年5月28日(木曜日)16時30分から18時50分まで

■場所

福岡市立障がい者就労支援センター 大研修室

■出席者

小手川委員長、高木副委員長、今泉委員、浦田委員、小淵委員、佐田委員、
末松委員、松本委員、見野委員

■意見要旨

【現状と課題(施設全般)】

- 現センターでは、アリーナは高い稼働率が続き、各種教室でも定員超過が生じている。新センターは一定規模を確保する方向で検討を進めるべきである。
- 現施設の駐車場不足は大きな課題である。移転建替えに際しては、車いす利用者を含めた来館者の円滑なアクセス確保のため、駐車台数の確保が必要である。
- 公共交通機関の駅やバス停から徒歩5分から10分程度でアクセスできるような雨降りでも利便性の高い場所が望ましい。
- 九州の拠点となることを視野に入れた場合、宿泊機能の導入も考えられる。

【現状と課題(設備)】

- プールは利用者が多く、子どもを含めた利用が想定される。また、水深、水温等の調整が可能で多様な利用に対応できるとよい。
- 陸上競技は、かけっこが基本で、誰でも簡単にできる運動の一つである。陸上トラック等の競技空間の整備についても検討の余地がある。
- 子育て世代の利用障壁を下げ、また、アスリートの継続支援にも資するよう、託児施設、キッズルームがあるとよい。

【現状と課題(運用、環境等)】

- ホームページや SNS、学校等を通じた情報発信が行われているが、視覚障がい者にとっては情報取得が難しい面がある。
- スポーツを通じて、通常学校と特別支援学校の児童生徒が共に参加でき楽し

めるとよい。そのための新しいインクルーシブスポーツを開発してはどうか。

- 福岡市は、障がい者スポーツのボランティアの会があることが全国的にも珍しい。障がい者スポーツの振興に当たって重要な組織であり活用していったほしい。
- 怪我の対応や予防が必須。医療の知識など資格を持った人がいると安心。
- 現在、大学の学生の学びの場として、現スポーツセンターとの連携も行っている。

【施設の役割】

- 市内の障がい者スポーツの環境を整えていくためのネットワーク拠点の機能が担えるとよい。
- 市内の全障がい者が週1回スポーツセンターを利用するとすると年間約 450 万人の受け入れが必要となり、現実的ではない。このため、新たな施設は、あくまでも、障がい者スポーツ環境を整えていく拠点とするべきだ。
- 障がい者に関する他の施設や団体、組織とうまくつながっていくことが必要であり、そのためには、様々な方の関わりが必要。
- 交流や相談などの機能にも対応し、地域の拠点として多様な役割を担う施設とすることが望ましい。
- 複数の窓口、団体にまたがる内容について、スムーズに対応していくためにネットワークが大事であり、関係団体が近くにいた方が一体的に対応しやすい。

【基本理念・コンセプト】

- スポーツのほかレクリエーションを行う施設として、文化活動や交流活動も、もって行える施設とすることが望ましい。
- 「スポーツが苦手だ」とか「体力がない」と思う人が来て、人と出会いコミュニティに加わることから、運動の楽しさを知り、スポーツを通じたつながりをつくっていく機会が提供できるとよい。
- 相互理解につながるような、障がいの有無にかかわらず誰もが交流できるインクルーシブな施設となるとよい。
- スポーツやレクリエーションは継続していくことが大事。目標があると継続できるので、目標を持つことができる環境を整えることが重要である。
- e スポーツは、操作機器の活用により、重度障がい者も楽しめ、参加の幅を広げることができる。

以上